

Oracle8 Server for Sun SPARC Solaris 2.x

リリース・ノート

リリース 8.0.6

2000 年 6 月

部品番号: J00125-02

原典情報: A70111-01 Oracle8 Release Note for Sun SPARC Solaris 2.x Release 8.0.6

ORACLE®

Copyright © 2000, Oracle Corporation
All Right Reserved

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle、Net8、Pro*COBOL、Pro*FORTRAN、SQL*Module、SQL*Plus、Advanced Networking Option、Advanced Replication Option、Developer/2000、Enabling the Information Age、InterOffice、Oracle Applications、Oracle Call Interface、Oracle Enterprise Manager、Oracle Installer、Oracle InterOffice、Oracle Names、Oracle Parallel Server、Oracle Server、Manager、Oracle Web Server、Oracle7 Server、Oracle8 Server、PL/SQL、Pro*C/C++は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

目次

改訂情報	3
使用上の注意	4
リリース 8.0.6.0.1 製品セット	5
アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則	7
サポートする OS バージョン	8
Installer について前バージョンとの変更点	9
Default Install と Custom Install について	9
製品選択の階層について	9
Oracle インストール前の設定作業	10
インストレーションについての注意事項	11
README.FIRST ファイル	11
インストレーション後の再リンク	11
ドキュメントのインストレーション	11
Legato Storage Manager のインストレーション	11
Pro*COBOL について	12
De-Install について	13
製品の制限事項および既知の障害	14
Precompiler について	14
Pro*COBOL について	14
Migration Utility	18
Oracle7 からの移行について	18
サイズが大きいファイルの扱いについて	18
Legato Storage Manager について	18
Net8 OpenAPI のサポートについて	18
英語オンラインドキュメントの扱いについて	19
エクスポートのメッセージについて	19

改訂情報

2000 年 6 月 14 日改訂

「サポートする OS バージョン」項目に、Solaris8 を追加しました。

使用上の注意

本リリースノートは Oracle8 Server for Sun SPARC Solaris リリース 8.0.6.0.1 製品セットを特に日本語環境で使用するにあたっての注意事項について解説しています。

『Oracle8 for Sun SPARC Solaris インストレーション・ガイド リリース 8.0.6』と合わせてご利用ください。

また、製品メディア中の `rdbsms/doc/README.doc` ファイルを必ずお読みください。

次の事項に関し説明します。

- リリース 8.0.6.0.1 製品セット
- アップグレード及びダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則
- サポートする OS バージョン
- Installer について前バージョンとの変更点
- Oracle インストール前の設定作業
- インストレーションについての注意事項
- 製品の制限事項および既知の障害

リリース 8.0.6.0.1 製品セット

製品	
Oracle Unix Installer	4.0.3.0.0
Oracle On-Line Text Viewer	1.0.1.0.0
SQL*Plus	8.0.6.0.0
Oracle for Sun SPARC Solaris Documentation	8.0.6.0
Net8	8.0.6.0.1
Net8 Protocol Adapters	8.0.6.0.0
TCP/IP Protocol Adapter	8.0.6.0.0
SPX/IPX Protocol Adapter	8.0.6.0.0 *5)
LU62 Protocol Adapter	8.0.6.0. *1)
Oracle Advanced Networking Option	8.0.6.0.0 *5)
Security and Single Sign-On	8.0.6.0.0 *5)
DCE Integration	8.0.6.0.0 *5)
DCE/CDS Naming Adapter	1.0.1.0.0 *5)
Client Software	8.0.6.0.0
Net8 External Naming Adapters	8.0.6.0.0
NIS Naming Adapter	1.0.1.0.0
Migration Utility: Oracle7 to Oracle8	8.0.6.0.1
PL/SQL	8.0.6.0.0
Oracle8 Enterprise(RDBMS)	8.0.6.0.1
Oracle Intelligent Agent	8.0.6.0.0
Oracle Data Gatherer	8.0.6.0.0
Oracle Parallel Server Management Components	8.0.6.0.0
Oracle8 JDBC Drivers	8.0.6.0.0
JDBC Thin Driver	8.0.6.0.0
JDBC OCI Driver	8.0.6.0.0
Object Type Translator	8.0.6.0.1
Oracle Cartridges	8.0.6.0.0

Oracle ConText Cartridge	2.4.6.0.1
Oracle8 Visual Information Retrieval(VIR) Cartridge	8.0.6.0.0 *1)
Oracle8 Spatial Cartridge	8.0.6.0.0
Oracle8 Image Cartridge	8.0.6.0.0
Oracle8 Time Series Cartridge	8.0.6.0.1 *1)
Oracle Options	8.0.6.0.0
Oracle8 Parallel Server Option	8.0.6.0.0
Oracle8 Objects Option	8.0.6.0.0
Oracle8 Partitioning Option	8.0.6.0.0
Precompilers	8.0.6.0.0
Pro*C/C++	8.0.6.0.1
Pro*FORTRAN	1.8.28.0.0
Pro*COBOL	1.8.28.0.0
SQL*Module for Ada	8.0.6.0.0 *1)
Pro*COBOL	8.0.6.0.1
Oracle Names	8.0.6.0.0 *3)
ORACLE NLS Libraries and Utilities	8.0.6.0.0 *4)
ORACLE Core Libraries	8.0.6.0.1 *4)
Oracle Server Manager	3.0.6.0.0 *2)
Legato Storage Manager	5.5.0 *2)*6)
Oracle Trace	4.0.0.0.1 *4)

備考：コンポーネントは、製品メディアに含まれる製品コンポーネントの一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

*1) 日本ではサポートされません。

*2) Oracle8 Enterprise (RDBMS) と同時にインストールされます。

*3) Net8 と同時にインストールされます。

*4) インストール時に選択できるものではありません。

*5) 対応する Network ソフトが導入されている必要があります。

*6) この製品は、Oracle Parallel Server を使用した環境ではサポートされていません。

アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則

Oracle8 リリース 8.0.6 では、アップグレードおよびダウングレード・スクリプトのネーミング規則が新しくなっています。

スクリプト名には、CAT*.SQL 形式を使用しません。新しいネーミング規則のスクリプトを使用すると、あるリリースから別のリリースへ直接移行することができます。

アップグレード用のスクリプトには U*.SQL 形式、ダウングレード用のスクリプトには D*.SQL 形式の名前が付いています。

次の 2 つの表に、アップグレードおよびダウングレード用の新しいスクリプト名を示します。

8.0.6 へアップグレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	U0800030.SQL
8.0.4	U0800040.SQL
8.0.5	U0800050.SQL

8.0.6 からアップグレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	D0800030.SQL
8.0.4	D0800040.SQL
8.0.5	D0800050.SQL

サポートする OS バージョン

対応 OS は、Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7 および Solaris 8 です。

オペレーション・システムとパッチ・レベルの要件については、『Oracle8 Server for Sun SPARC Solaris 2.x インストレーション・ガイド リリース 8.0.6』の第 1 章を参照してください。

Solaris2.3 および 2.4 は、使用できません。

Installer について前バージョンとの変更点

Oracle8 リリース 8.0 の Installer は、以前のバージョンのものと比較してユーザー・インタフェースが変更されています。以下に Oracle8 リリース 8.0 の Installer で変更された箇所を説明します。

Default Install と Custom Install について

日本語のメッセージをインストールしたり、US7ASCII 以外のデータベース・キャラクタ・セットを使用するためには、「Install Type」画面にて“Custom Install”を選択してください。

製品選択の階層について

インストールする製品の選択が階層表示になりました。（製品名の左にあるプラス記号 (+) によって示されています。）

例えば Pro*シリーズプリコンパイラの各製品をインストールするには、まず「Precompiler」をダブルクリック（キャラクタ・モードでは、「リターン」）し、その後「Pro*C」など個々の製品を選択してください。

「Precompiler」だけを選択しても、Pro*C など各製品はインストールされません。

Oracle インストール前の設定作業

1. 現在の Oracle Installer は日本語環境では使用できません。日本語環境にインストールする場合、あらかじめ環境変数 `NLS_LANG` を設定解除してください。

【実行例（C シェルの場合）】

```
% echo $NLS_LANG
Japanese_Japan.JA16EUC
% unsetenv NLS_LANG
```

【実行例（B シェルおよびK シェルの場合）】

```
$ echo "$NLS_LANG"
Japanese_Japan.JA16EUC
$ NLS_LANG =American_America.US7ASCII; export NLS_LANG
```

2. 環境変数 `LANG` を設定していると再リンク時にエラーになることがありますので、あらかじめ環境変数 `LANG` を設定解除してください。

【実行例（C シェルの場合）】

```
% echo $LANG
japanese
% unsetenv LANG
```

【実行例（B シェルおよびK シェルの場合）】

```
$ echo "$LANG"
japanese
$ LANG=C; export LANG
```

インストールについての注意事項

Oracle をインストールする上で、既知の障害および注意事項について以下に説明します。

README.FIRST ファイル

このファイルには、リリース 8.0.6 の最新情報および制限事項が記述されています。Oracle Installer を起動すると、このファイルが表示されます。注意してお読みください。

インストール後の再リンク

次の 2 つの場合には、実行ファイルを再リンクするために Installer の再実行が必要です。

1. DCE Integration のインストールを選択した場合
2. Intelligent Agent のインストール後に、Advanced Networking Option をインストールする場合

手順の詳細は、『Oracle8 for Sun SPARC Solaris 2.x インストール・ガイド』の付録 A にある「クライアント共有ライブラリの再構築および再リンク」を参照してください。

ドキュメントのインストール

「Create/Upgrade Database Objects」または「Perform Administrative Tasks」を選択しているときに、「Documentation」を選択すると Installer のエラーが発生します。「Create/Upgrade Database Objects」および「Perform Administrative Tasks」はドキュメントに適した Installer 機能ではないので、これらのタスクを実行しているときは「Documentation」を選択しないでください。

Legato Storage Manager のインストール

LSM のインストール手順については、次を参照してください。

<http://www.oracle.com/database/recovery/index.html>

Pro*COBOL について

Sun 日本語 COBOL がインストールされている環境で、Pro*COBOL をインストールをすると、以下のようなエラーメッセージが出力されます。

```
O/S Error
Error during action 'Relinking Pro*COBOL executable'.
Command: make -f
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/precomp/lib/ins_precomp.mk
ORACLE_HOME=/ora806/app/oracle/product/8.0.6 EXENAME=rtsora relink
Linking rtsora
cob -o rtsora -xe ""
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/precomp/lib/cobsqlintf.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/scorept.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/sscoreed.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/rdbms/lib/kpudfo.o -L
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/ -lclntsh -lsql
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/ -lclntsh -lsql
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/nautab.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naeet.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naect.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naedhs.o `cat
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naldflgs` -lnetv2 -lnttcp -
lnetwork -lncr -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lclient -lvsn -lcommon -
lgeneric -lmm -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lnetv2
-lnttcp -lnetwork -lncr -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lclient -lvsn -
lcommonx -lgeneric -lplsfl -lplsfb -llextp -lepc -lnlsrtl3 -lcore4 -
lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lclient -lvsn -lcommon -lgeneric -lnlsrtl3
-lcore4 -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 `cat
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/sysliblist` -lc -laio -lm
sh: cob: not found
***Error code 1
make: Fatal error: Command failed for target `rtsora'
```

これは、MicroFocus COBOL 用の実行モジュール“rtsora”を作成しようとしてエラーが発生しています。

MicroFocus COBOL を使用していない (Sun 日本語 COBOL を使用している) 場合は、“Igrone (無視)”を選択し、Oracle インストールを進めてください。

De-Install について

全ての製品を De-Install した場合、最後に以下のようなエラーが出力される事があります。

```
Error
Installation of shared oracle library to be used for Pro*C, OCI and XA
clients has failed.
Please run
make -f ins_rdbms.mk client_sharedlib
in
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/rdbms/lib
after exiting installer session.
```

“OK”を押下すると、「Software Asset Manager」画面に戻りますので、“Exit”して De-Install を終了し、UNIX コマンド“rm -r”を使って Oracle をインストールしたディレクトリを削除してください。

製品の制限事項および既知の障害

既知の障害および制限事項については、各製品ごとの doc ディレクトリ下のオンライン README ファイルを必ずお読みください。

オンライン README ファイルに記載以外の日本語環境での既知の障害および制限事項について以下に記述します。

Precompiler について

製品の demo プログラムおよびファイルは参考用です。そのままでは動作しないものがあります。

製品のソフトウェア要件の詳細については、『Oracle8 Server for Sun SPARC Solaris 2.x インストール・ガイド リリース 8.0.6』を参照してください。

なお、サポート対象となるコンパイラのバージョンに関しては、コンパイラの提供ベンダーが上位互換を保証している場合は、下位バージョンのコンパイラに対して Precompiler がサポートしている範囲において、上位バージョンのコンパイラについてもサポート対象とします。

例. Sun 日本語 COBOL 1.1

コンパイラの互換性については、コンパイラの提供ベンダーもしくはご購入元にお問い合わせください。

Pro*COBOL について

- 今回リリースの Pro*COBOL には、Pro*COBOL8.0.6.0.0 および Pro*COBOL1.8.28.0.0 の 2 つのバージョンがあります。それぞれに付属の makefile は以下の表のようになります。

Pro*COBOL 1.8.28.0.0	ディレクトリ
Micro Focus COBOL	\$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob/demo_procob18.mk
Sun 日本語 COBOL	\$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob/demo_procob18.mk.nsun
Pro*COBOL 8.0.6.0.0	ディレクトリ
Micro Focus COBOL	\$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob2/demo_procob.mk

- Sun 日本語 COBOL の makefile の不具合について

製品の demo プログラムにある Sun 日本語 COBOL の makefile に不具合があります。

そのまま使用するとコンパイルエラーを出力するので、以下の表のように修正して使用してください。

修正する前に、以下の makefile を別のファイル名にコピーしておく事をお薦めします。

1. \$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob/demo_procob18.mk.nsun

28 行目	誤	27 build: \$(COBS) 28 \$(COB) \$(COBFLAGS) -o \$(EXE) 29 -Wl,"-L\$(LIBHOME) \$(COBSQLINTF) \$(PROLDLIBS)" \$(COBS)
	正	27 build: \$(COBS) 28 \$(COB) \$(COBFLAGS) -o \$(EXE) -Wl,"-L\$(LIBHOME) \$(COBSQLINTF) \$(PROLDLIBS)" \$(COBS)
	説明	28 行目に改行が入っているので、28,29 行を 1 行にします。
41 行目	誤	40 # Si 41 nce the controlling executable in a forms application is from forms, 42 # a dynamically linked procobol user-exit doesn't really make sense.
	正	40 # Since the controlling executable in a forms application is from forms, 41 # a dynamically linked procobol user-exit doesn't really make sense.
	説明	40 行目に改行が入っているので、40,41 行を 1 行にします。
52 行目	誤	52 If you have already run the scripts, then RUNSQL=done will omit the reminder.
	正	52 # If you have already run the scripts, then RUNSQL=done will omit the reminder.
	説明	52 行はコメント行なので、“#”を先頭に付けます。

66 行目	誤	65 sample11-sql: 66 \$(MAKE) -f \$(MAKEFILE) USER=scott/ti 67 ger SCRIPT=sample11 sqlplus_\$(RUNSQL)
	正	65 sample11-sql: 66 \$(MAKE) -f \$(MAKEFILE) USER=scott/tiger SCRIPT=sample11 sqlplus_\$(RUNSQL)
	説明	66 行目に改行が入っているので、66,67 行を 1 行にします。
86 行目	誤	85 # The macro definition fill in some details or override some 86 defaults from 87 # other files.
	正	85 # The macro definition fill in some details or override some 86 # defaults from 87 # other files.
	説明	86 行はコメント行なので、”#”を先頭に付けます。
91 行目	誤	91 MAKEFILE=demo_procob18.mk
	正	91 MAKEFILE=demo_procob18.mk.nsun
	説明	91 行目の makefile の名前が Micro Focus COBOL 用なので、Sun 日本語 COBOL 用のファイル名に変更してください。

2. \$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob2/demo_procob.mk.nsun

28 行目	誤	28 build_static: 29 \$(COBS) 30 \$(COB) \$(COBFLAGS) -o \$(EXE) -Wl,"-L\$(LIBHOME) \$(COBSQLINTF) \$(STATICPROLDLIBS)" \$(COBS)
	正	28 build_static: \$(COBS) 29 \$(COB) \$(COBFLAGS) -o \$(EXE) -Wl,"-L\$(LIBHOME) \$(COBSQLINTF) \$(STATICPROLDLIBS)" \$(COBS)
	説明	28 行目に改行が入っているので、28,29 行を 1 行にします。

40 行目	誤	39 # Since the controlling executable in a forms application is from forms 40 ,
	正	39 # Since the controlling executable in a forms application is from forms 40 # ,
	説明	40 行はコメント行なので、”#”を先頭に付けます。
51 行目	誤	50 # If you have already run the scripts, then RUNSQL=done will omit the 51 reminder.
	正	50 # If you have already run the scripts, then RUNSQL=done will omit the 51 # reminder.
	説明	51 行はコメント行なので、”#”を先頭に付けます。
68 行目	誤	67 # Here are some rules for c 68 onverting .pco -> .cob -> .o and for .cob -> .gnt.
	正	67 # Here are some rules for c 68 # onverting .pco -> .cob -> .o and for .cob -> .gnt.
	説明	68 行はコメント行なので、”#”を先頭に付けます。
89 行目	誤	89 MAKEFILE=\$(ORACLE_HOME) 90 /precomp/demo/procob2/demo_procob.mk
	正	89 MAKEFILE=\$(ORACLE_HOME) /precomp/demo/procob2/demo_procob.mk.nsun
	説明	89 行目に改行が入っているので、89,90 行を 1 行にします。 makefile の名前が Micro Focus COBOL 用なので、Sun 日本語 COBOL 用のファイル名に変更してください。

Migration Utility

- Migration Utility にて移行できる Oracle7 Server のリリースは 7.1.6、7.2.3、7.3.3、7.3.4 です。
但し、レプリケーション環境を使用しているデータベース（読み出し専用スナップショットを除く）を移行する場合、必ず Oracle7 リリース 7.3.3 以上（リリース 7.3.4 を推奨）に移行してから、Oracle8 への移行を行ってください。
- データベース・キャラクタ・セットと NLS_LANG 環境変数のキャラクタ・セットが一致していないとデータベースを正常に移行できません。必ず同一のキャラクタ・セットを設定していることを確認してから Migration Utility を起動してください。
- Migration Utility を起動するには、Oracle Installer からとコマンドラインからの 2 通りの方法がありますが、US7ASCII 以外のキャラクタ・セットのデータベースに対しては、Oracle Installer から起動すると正常動作しません。Migration Utility はコマンドラインから起動してください。

Oracle7 からの移行について

リリース 7.0 のデータベースから Oracle8 へ移行する場合は、Migration Utility は使用できません。

サイズが大きいファイルの扱いについて

Oracle8 では、非常に大きいサイズのファイルが扱えます。Solaris2.5.1 で非常に大きいサイズのファイルを扱えますが、ファイル・システムおよびボリューム・マネージャにファイル・サイズ制限がないことを確認する必要があります。System V ファイル・システムには、2GB までのファイル・サイズしか扱えないものがあります。

Legato Storage Manager について

レガートシステムズ社の Networker Server Software および Networker Client Software がインストールされている上に、Legato Storage Manager をインストールすることはできません。これらは、共存する事はできません。

Net8 OpenAPI のサポートについて

Net8 OpenAPI はサポート対象外です。

英語オンラインドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

エクスポートのメッセージについて

以下のような日本語メッセージの表示に不具合があります。

「“xxx”」には、文字列が挿入されます。

エラー番号	誤	正
EXP-00214	表領域“xxx”をエクスポートしています	表“xxx”をエクスポートしています